

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>20</b>

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	2015年11月3日
評価確定日	2015年12月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800104	事業の開始年月日	平成20年2月1日	
		指定年月日	平成20年2月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	春風の丘			
所在地	( 224-0014 ) 神奈川県横浜市都筑区牛久保東3-23-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春風の丘は、平屋建ての建物に広大な敷地、庭には四季折々の花が咲き乱れ、ご利用者・職員が手入れをして育てております。又、天気の良い日には景色を楽しみながら庭園でのティータイムを楽しむ事が出来、清々しい環境を整えております。近くには大きな公園が隣接しており、それに通ずる遊歩道は車道と区別されとても安全な環境にあります。駅まで徒歩15分程で行け、大型ショッピングモールが立ち並び、買い物にも便利です。地域との交流も深く、盆踊り・敬老会・防災訓練等に参加しております。又、地域と防災協定を締結している為、災害時には相互協力体制を整えており、安心・安全な生活が送れます。医療体制も法人内の診療所と契約している為、24時間の医療連携が確保されております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年11月3日	評価機関 評価決定日	平成27年12月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●事業所の経営母体は社会福祉法人秀峰会です。法人の3つの理念「人間が主体である・連携の輪を無限に広げていく・日に日に新たな今日を創造していく」を玄関の目立つ場所に掲示しています。この理念は秀峰会の展開している全ての介護事業所で統一されており、一貫したケアが行われています。理念の周知は毎月第一・第三水曜日の法人代表によるTV朝礼、申し送り、カンファレンスの都度にも行っています。また、秀峰会グループでは職員一人ひとりが「羅針盤」(法人の理念やテーマ介護職員としての心得が記載された物)を携帯し、理念の実現に取り組んでいます。この事業所は横浜市営地下鉄「センター北駅」から徒歩15分程の、住宅と町工場が点在する場所に位置しています。外観は高齢者の生活環境に配慮した平屋建てで、広い敷地内では四季折々の花が咲き、畑や花壇を利用した園芸活動も行われ、快適な住環境の中で生活を送れるグループホームです。

●管理者はケアワーカーとして10年間現場勤務の経験を持ち、管理者になった今でも現場に出る機会を多く持つことで職員と利用者のニーズを把握し応えることが、よりよいサービスの提供、働きやすい環境に繋がると考えています。また、管理者は日頃から、利用者主体で行動することを周知しています。

●地域との連携については町内会に加入し、敬老会や盆踊りなどの諸行事への参加や事業所恒例のイベントには家族や多くの地域の方々への参加をいただいています。町内会の方から車椅子の使い方や認知症の講習の要望もあり開催を予定しています。また、今年の7月には事業所初の家族会を開催し、15組の家族が参加し個別に様々な質問や相談を受けたので、今後も継続していくことを目標にしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	春風の丘
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝の朝礼時に唱和をして、日々のケアで実践している	毎日の朝礼時に理念の唱和と共に携帯している「羅針盤」から言葉遣いの5か条を読み上げ意識統一を図ってから、日々の業務についています。また、管理者は利用者主体に考えたケアを日頃から職員に話し、周知しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入をし、地域行事へは積極的な参加を実施している。 運営推進会議にも、ご利用者が出席される 町内会のホームページにも、春風の丘の避難訓練の様子やお祭りの記事が載せられている	町内会に加入し避難訓練、祭りや敬老会に参加している他、毎日利用者と共に近隣の公園清掃活動を行い近隣の美化活動も行っています。また、町内会の方から車椅子の使い方や認知症の講習会を開催してほしいと要望を受け、開催する予定です。近隣の中川小学校から30名程の生徒が歌を披露してくれる等、良好な関係を継続出来ています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験の場を設け、認知症支援の手助けをしたり、理解を深めて頂いている 小学校へ認知症サポート養成講座の講師としても参加している	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解してもらい意見交換を行っている。また、話し合われた情報や地域の方の助言を職員間で共有し、日々のケアに活用している	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、町内会長、副会長、民生委員、地域包括職員、家族、利用者も参加しています。町内会副会長が福祉に対してとても熱心でありアドバイスや意見を積極的に言っています。頂いた意見については職員間で共有し、日々のケアに反映させています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事に参加して頂き、日々の支援への報告や助言を頂いている	中川包括支援センターの職員に運営推進会議に出席頂いており、報告の際に助言をもらっています。都筑区からは季節の感染症等についての研修会への参加や、毎年中川コミュニティセンターで開催している子ども認知症サポートにお手伝いとして参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業部研修の中で、身体拘束廃止の研修を設けそれに参加している。参加者より、事業所の会議にて落とし込んで認識を深めている。 言葉による拘束(スピーチロック)には特に周知している	毎月法人の事業部研修で身体拘束について各事業所の職員が持ち回りで講師を担当し、勉強会を開催しています。帰所後は、学んだことについて理解できているかのアンケートを実施し事業所内の全体会議で発表の場を設けると共に拘束ゼロの手引きを参照しながら、どのような事例が拘束に該当するのか職員に周知しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修の中で、虐待防止の研修を設けてそこに参加している。又全体会議の中でも、虐待防止チェックリストを活用し、日々のケアと照らし合わせて認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に研修に参加して、他の職員へ周知している。成年後見制度の利用をされている方、又これから利用を考えているご家族へは、相談と情報の提供を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者とユニット長共に立ち会い、丁寧な説明をさせて頂いている。 又、ご家族様の要望をより取り入れられるように情報の共有をはかっている。 解約の際は、居室の片付け等協力出来る事はさせて頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて代表者の意見や助言を伺い反映させている。家族会の時にも、意見や要望を伺い、ケアに反映させている。意見箱の設置も実施している	家族からの意見・要望については運営推進会議や来訪時に近況報告と併せてお伺いしケアに反映しています。今年から新たに家族会の機会を設け、15組のご家族に参加いただきました。家族会では自由な意見・要望や個別の質問等、様々な話が聞かれたので今後は年2回の開催を目指し取り組んでいく方向です。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を設け、各職員からの意見を大切にし事業所の運営に反映させている。	管理者は本部長会議の内容を月1回の全体会議で職員に情報を共有しています。職員からの意見については個別ケアやレクリエーションに関する意見が中心ですが、全体会議で話し合い取り入れています。また、管理者は現場に入る時間を多く持つもち職員のニーズを把握することで、働きやすい環境作りに入れています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、正職員を対象とした評価制度を導入して、実績や達成評価を面談し、昇給昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行っている。又月に一度の事業部研修の参加は必ず行っている GH連絡会主催の外部研修にも積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流の機会を作る事を提供している。都筑エリア内のGHとの交流は特に多く協力体制をとったり情報交換を密にしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学の際に、要望等を伺い、これまでの生活歴を含めて情報収集をして、最初の関係作りを活かしている。又、入居当初は密に関わりを持ちホームでの生活の様子を情報収集し、今後の支援に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、契約の際に状況を聞く時間を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定でない事を踏まえ、将来の変化を予期する事も必要だが、現段階で何が必要で何が出来るかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、日常生活の中での家族的な場面に参加し職員と共に活動して頂くように支援している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力しあう事でご本人が安心して生活が送れる事を説明し、様々な事でご協力を頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、地域の方との交流が継続できるように場所の提供を支援している。	かつて近所に住んでいた方の訪問もあり、交流を継続している方、事業所の固定電話を使用した取次ぎや手紙のやりとりもお手伝いしながら関係が途切れないよう支援しています。個別での支援については家族に協力を得ることで、これまでのなじみの人や場所との関係を継続出来るよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースに於いて職員が関われる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や、施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人と会話をし、願いや希望を把握している。カンファレンスの中で実践できるように検討している	入居時に本人と家族から過去の生活歴等を伺い情報の把握に努めています。日々の関わり合いの中で得られた情報については、情報シートや個人記録に落とし込み職員間で情報を共有しています。カンファレンスの中でそれらの情報を基に実践できるかを検討しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用などの状況をご本人やご家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人一人最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスなどで、ご利用者一人一人の介護計画のモニタリングを実施している。その中でプランの見直しも全職員の意見を反映するように努めている	毎月のカンファレンスでモニタリングを実施し、介護計画に沿った支援ができていないか振り返りを行っています。介護計画はカンファレンスで職員からの情報や日々の記録を基に担当者会議でまとめ作成しています。居室担当者を設け1ヵ月間は一人の利用者を中心に関わり、家族へ送る手紙の文章を考えたり、誕生日の行事を考えています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事で、ホーム内にて多彩な活動(ちぎり絵・習字・塗り絵・フラダンス)を行い、ご利用者の生活が豊になるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関による訪問診療を利用しながら、24時間365日の医療連携に努めている。ご本人・ご家族が納得する診療内容になるように橋渡しをしている	法人内の医療機関から内科が月2回、歯科の訪問は必要に応じて往診を受けています。入居時にかかりつけ医の有無を確認し、従来のかかりつけ医での受診を希望する方には、意向を尊重して受診してもらっています。法人の看護師による訪問が週1回有り、体調管理を行っている他、必要に応じて24時間対応も可能で、適切な医療を受けられる体制を構築しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関により、週1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ、早期の支援が出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに提供している。また退院に向け、ソーシャルワーカーと連絡も図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回の契約時に重度化や終末期に係る指針を説明し、事業所が対応可能な範囲を確認し、同意をしている。又、医療機関とも連携を図りながら、ご家族へは納得した説明を行っている。	入居時に重度化や終末期に関する指針を説明し、家族から同意をもらっています。重度化した際には家族、医師、職員による話し合いを重ね方向性を決めた上で常に情報を共有しながらチームとして最後まで支援しています。職員へのケアについては、事業所の研修、事業所内でも勉強会やシュミレーションを行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。又、訓練に関しては、救命講習を年1度実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練を実施している。地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。	年6回様々な想定をした避難訓練を実施しています。年2回は消防署の職員に立会いをお願いし、適切な指導やアドバイスをもらっています。また、町内会の副会長がとても熱心にアドバイスや協力してくれていることもあり、地域との防災協定を締結しています。備蓄に関しては水や食料品を3日分用意しています。また、災害時は法人の方針として、一人残さず避難させることを目標にしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部研修の中でプライバシーの保護というテーマに添って、学ぶ場を設けている。 個人の尊重をした声かけやプライバシーに配慮した声掛けも常に意識するように指導している	法人の事業部研修でもプライバシーや尊厳について勉強する機会が設けられており、管理者を含め参加した職員が事業所内の研修で講師を担当し、他の職員にフィードバックしています。ミーティングの際に利用者の名前をイニシャルで言ったり、誘導時の声かけにも誇りやプライバシーを損ねないように常に配慮しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話に傾聴をし、本人が自己決定できるように働きかけている	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いる事のないように配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者の栄養士により、高齢者向けの福祉メニューを導入している。食事時のBGMや座席にも配慮をし、食事摂取が進む環境づくりをしている。食事の準備、片付けもご利用者の参加を実施し、役割を持った生活を提供している	食事のメニューは業者の栄養士が作成した物を採用し、業者委託で食材を調達しています。食事の際はBGMや、利用者同士の座席にも考慮し食事摂取が進むように配慮しています。できる方には盛り付けや片付けを手伝ってもらい、食事に関わってもらうようにしています。誕生日や行事の際には出前や外食を活用し、普段とは違うものを食べてもらうことで楽しめるよう工夫しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛け・誘導や一人一人の排泄のリズムを各職員が把握して、対応している。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握に努め、サインを見逃さないように観察、タイミングを見計らった声掛けで誘導し、トイレでの自立排泄に向けた支援を行っています。自立している方には見守りで必要以上に介入しないケアを心がけています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便困が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を目安として、ご案内しているが拒否がある方や、希望がある方には、職員の都合を押し付けないように配慮している	週2回の入浴を基本としていますが、入浴日は決めずに本人の気分や体調に合わせて臨機応変に対応しています。拒否のある方には担当職員を代えたり、時間を空けて声かけ、希望のある方には職員の都合を押し付けずに利用者本位で入浴してもらうよう支援しています。季節のゆずや菖蒲を使って楽しめるよう工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している。誤薬が起きぬ様、マニュアルを作成し、確実な服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方に対しては、要望を受けて散歩や買い物にお誘いしている。特別な場所への対応に関しては、ご家族と連携を図り、安全を配慮している	天気の良い日には散歩や広い庭でお茶会、外気浴や畑の手入れ、買い物など希望に応じて外へ出る機会を設けています。外出レクではみなとみらいや中華街、ズーラシア、近隣の公園で花見を企画し出かけています。特別な場所への対応に関しては、家族の協力を得ながら外出支援しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。手紙の作成、投函に関しても支援をしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をする事の無い様に配慮している 季節感を感じられるような飾りつけも、ご利用者と一緒に作成している	外観は大きな平屋建ての造りになっており、ユニットごとに入り口が別れていますが、建物の中は自由にユニット間の出入りができるようになっています。室内は左右対称の造りになっており、事務室、調理室、浴室が並び、リビングはT字型になっています。リビングを中心に左右に居室が並ぶレイアウトで、室内の装飾は環境兼レイアウト担当を中心に、利用者の作品や外出時の写真、季節の生け花を飾り季節が感じられるよう工夫しています。リビングの色合いも温かく家庭的な雰囲気になっています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、ご本人の希望や状態に合わせて使用して頂いている。 自分のお部屋が覚えられない方の為に、入口にネームプレートを設置している。	備え付けとして、エアコンやクローゼットはありますが、それ以外の物については入居時に家族に使い慣れた家具や思いでの品を持ち込んでもらうように話しています。家族写真やレクで作った作品、自宅で使用していたベット、筆筒、鏡等を持ち込み、家族と利用者が相談しながらレイアウトを決め、寛げる空間になっています。また、希望により法人から介護ベットのレンタルも出来るよう配慮されています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促がし見守りをおこなう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している			

目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

作成日

平成27年11月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画への意識改革	全職員が介護計画に添った支援を意識する	介護計画を全職員に把握させると共に実践に結びつける	6か月
2	21	ご利用者同士のトラブルがある	穏やかで安心した生活	職員とご利用者の関わる時間を増やす	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	春風の丘
ユニット名	たんぽぽ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝の朝礼時に唱和をして、日々のケアで実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入をし、地域行事へは積極的な参加を実施している。 運営推進会議にも、ご利用者が出席される 町内会のホームページにも、春風の丘の避難訓練の様子やお祭りの記事が載せられている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験の場を設け、認知症支援の手助けをしたり、理解を深めて頂いている 小学校へ認知症サポート養成講座の講師としても参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解してもらい意見交換を行っている。また、話し合われた情報や地域の方の助言を職員間で共有し、日々のケアに活用している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事に参加して頂き、日々の支援への報告や助言を頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業部研修の中で、身体拘束廃止の研修を設けそれに参加している。参加者より、事業所の会議にて落とし込んで認識を深めている。 言葉による拘束(スピーチロック)には特に周知している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修の中で、虐待防止の研修を設けてそこに参加している。又全体会議の中でも、虐待防止チェックリストを活用し、日々のケアと照らし合わせて認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に研修に参加して、他の職員へ周知している。成年後見制度の利用をされている方、又これから利用を考えているご家族へは、相談と情報の提供を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者とユニット長共に立ち会い、丁寧な説明をさせて頂いている。 又、ご家族様の要望をより取り入れられるように情報の共有をはかっている。 解約の際は、居室の片付け等協力出来る事はさせて頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて代表者の意見や助言を伺い反映させている。家族会の時にも、意見や要望を伺い、ケアに反映させている。意見箱の設置も実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を設け、各職員からの意見を大切にし事業所の運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、正職員を対象とした評価制度を導入して、実績や達成評価を面談し、昇給昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行っている。又月に一度の事業部研修の参加は必ず行っている GH連絡会主催の外部研修にも積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流の機会を作る事を提供している。都筑エリア内のGHとの交流は特に多く協力体制をとったり情報交換を密にしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学の時に、要望等を伺い、これまでの生活歴を含めて情報収集をして、最初の関係作りに活かしている。又、入居当初は密に関わりを持ちホームでの生活の様子を情報収集し、今後の支援に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、契約の際に状況を聞く時間を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定でない事を踏まえ、将来の変化を予期する事も必要だが、現段階で何が必要で何が出来るかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、日常生活の中での家族的な場面に参加し職員と共に活動して頂くように支援している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力しあう事でご本人が安心して生活が送れる事を説明し、様々な事でご協力を頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、地域の方との交流が継続できるように場所の提供を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースに於いて職員が関われる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や、施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人と会話をし、願いや希望を把握している。カンファレンスの中で実践できるように検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用などの状況をご本人やご家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人一人最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスなどで、ご利用者一人一人の介護計画のモニタリングを実施している。その中でプランの見直しも全職員の意見を反映するように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事で、ホーム内にて多彩な活動(ちぎり絵・習字・塗り絵・フラダンス)を行い、ご利用者の生活が豊になるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関による訪問診療を利用しながら、24時間365日の医療連携に努めている。ご本人・ご家族が納得する診療内容になるように橋渡しをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関により、週1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ、早期の支援が出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに提供している。また退院に向け、ソーシャルワーカーと連絡も図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回の契約時に重度化や終末期に係る指針を説明し、事業所が対応可能な範囲を確認し、同意をしている。又、医療機関とも連携を図りながら、ご家族へは納得した説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。又、訓練に関しては、救命講習を年1度実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練を実施している。地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部研修の中でプライバシーの保護というテーマに添って、学ぶ場を設けている。 個人の尊重をした声かけやプライバシーに配慮した声掛けも常に意識するように指導している			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話に傾聴をし、本人が自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いする事のないように配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者の栄養士により、高齢者向けの福祉メニューを導入している。食事時のBGMや座席にも配慮をし、食事摂取が進む環境づくりをしている。食事の準備、片付けもご利用者の参加を実施し、役割を持った生活を提供している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛け・誘導や一人一人の排泄のリズムを各職員が把握して、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便困が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を目安として、ご案内しているが拒否がある方や、希望がある方には、職員の都合を押し付けないように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々の個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している 誤薬が起きぬ様、マニュアルを作成し、確実な服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方に対しては、要望を受けて散歩や買い物にお誘いしている。 特別な場所への対応に関しては、ご家族と連携を図り、安全を配慮している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。手紙の作成、投函に関しても支援をしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をする事の無い様に配慮している 季節感を感じられるような飾りつけも、ご利用者と一緒に作成している			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、ご本人の希望や状態に合わせて使用して頂いている。 自分のお部屋が覚えられない方の為に、入口にネームプレートを設置している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促がし見守りをおこなう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している			

目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

作成日

平成27年11月3日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画への意識改革	全職員が介護計画に添った支援を意識する	介護計画を全職員に把握させると共に実践に結びつける	6か月
2	21	ご利用者同士のトラブルがある	穏やかで安心した生活	職員とご利用者の関わる時間を増やす	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。